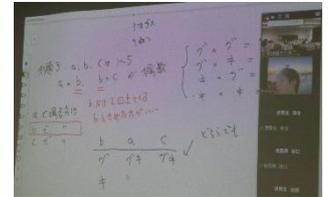




オンラインで数学の合同学習会を実施しました。

9月11日（土）に、数学の合同学習会をオンラインで実施しました（右写真）。合同学習会には、本校中学高校生だけでなく、県内の高校1・2年生も参加しました。科学的人材に求められる高度な知識や論理的思考力等を高めることを目的として、公益財団法人数学オリンピック財団で数学オリンピック日本委員会の委員である峰岸龍先生を講師に招いて講義をしていただきました。



講義では、数学オリンピックで過去実際に出題された問題などを使って、解法の糸口の見つけ方や膨大な組み合わせが考えられる中でどのようにして必要な情報を絞っていくかなどを、例を挙げながら分かりやすく話をさせていただきました。問題演習では、生徒どうして活発に議論をしながら取り組んでいました（左写真）。この学習会で学んだ考え方を、今後の数学の学習に活かすことはもちろん、課題研究を始めとした今後の様々な科学的活動に活かして欲しいと思います。

<参加した生徒の感想>

- 場合の数の解法に数列の考え方を使うなど、今まで知らなかった新しいアイデアを得ることができた。単元や定石に囚われない柔軟な思考力を意識した学習に取り組んできたい。

オンラインでSSH情報の「プログラミング学習」講演会を開催しました。

理数科の2年生は、SSH情報の授業の中でプログラミング学習に取り組みます。プログラミング学習を行うにあたって、9月29日（水）に太成学院大学経営学部 教授 西野和典 先生に「問題解決の方法と手順」と題してオンラインで講演していただきました。

先生は、「プログラミングは目標を明確にし、目標達成のために必要な課題を洗い出し、1つ1つクリアしていくことが重要であること」を生徒達に伝えられました。具体的には「現状と目標のギャップを埋めるための解決法としてモデル化を行い、そしてモデルに合ったプログラムをコンピュータで作成し、さらにそのプログラミングを実行し、得られた結果が目標達成として許容できるか判断を行う」という流れであることを図式化して簡潔に説明されました（右写真）。生徒の中にはプログラミングという言葉だけで不安を感じていたが、西野先生の講演を聴くことで全体像が掴め、今後の活動が楽しみになったと言っていた人もいました。



今後、生徒達は「Scratch」を用いてプログラミング学習をしていきますが、この講演を糧にしてSSH情報の授業をさらに充実させていって欲しいと思います。

<参加した生徒の感想>

- 日常生活のちょっとしたことが、プログラミングと同じステップになっていることを知り、プログラミングを身近に感じる事ができた。